

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「彼女を殺す、たった一つの決定因子」

テーマ：「死んだのに、死んでない美少女」

キャラクター

75

ストーリー

55

テーマ(設定)

60

文章力

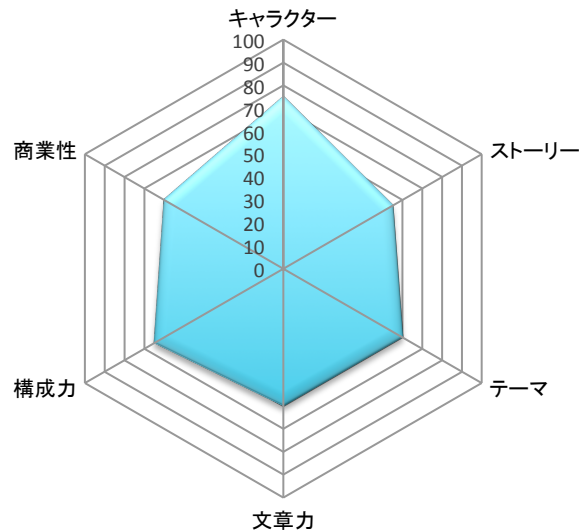
60

構成力

65

商業性

60



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

「朝、目が覚めると首吊り死体が目の前にあった。ぼろぼろ、これ以上ないほどに死んでいる。」冒頭が巧い。冒頭に死体を転がしただけではなく、「ぼろぼろ死んでいる」という死体を表現するにはどこか滑稽さのあるこのギャップで一気にはきき込まれた。その後死体(といていいのか?)であるカムイと普通にご飯を食べていたり、作品全体に渡って「死んだのに普通に日常を送っている美少女」のシュールな面白さが全開であるため、ただただ楽しく読み進めることができた。
 ・カムイが自己犠牲のもとに消えるという終わらせ方は(人によっては救いが無さ過ぎると思うかもしれない)お涙頂戴ものの王道として非常に良かったと感じる。ただ、終盤ギリギリまでカムイの可愛らしさを存分に表現してしまったからこそ、カムイがストーリーのご都合展開のために殺された感を感じてしまい、ストーリーが面白くないというラインを飛び越えてカムイを殺した作者を絶対許さないという域にまで達している読み手は多いのではないかと感じる。
 ・50枚という制限上仕方がないが、恐らく長編となった時にカムイとの日常シーンを多く追加し、その過程でさりげなく2回復活ルールを出しておけば後だし感も払拭され、恐らく最高に面白い作品になる。

合計加点ポイント 0

総得点: 375 / 600

B方式総合得点: 23438 点